

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年12月13日 (2018.12.13)

【公開番号】特開2017-136456(P2017-136456A)

【公開日】平成29年8月10日 (2017.8.10)

【年通号数】公開・登録公報2017-030

【出願番号】特願2017-98155(P2017-98155)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成30年10月30日 (2018.10.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

演出操作装置及び回転手段を備える遊技機において、

前記回転手段は、回転軸と、当該回転軸により支持される回転体と、当該回転体を回転可能に支持するように設けられる支持部材とを有して、期待度の高い演出態様或いは期待度の低い演出態様を前記回転体の表面の絵柄にて報知するようになっており、

前記演出操作装置は、

ベースと、

当該ベースに押動可能に支持してなる操作ボタンと、

当該操作ボタンに対し振動を伝達可能に前記ベースに支持してなる可振板と、

当該可振板の面に沿う前後方向中心線上に前記可振板及び前記ベースに接触可能に設けてなる前側弾性スペーサ手段と、

前記前後方向中心線に対する法線上にて前記前後方向中心線の左右対称な位置に位置するように前記可振板及び前記ベースに接触可能に設けられる左右両側弾性スペーサ手段と

、

振動発生手段とを備えており、

前記左右両側弾性スペーサ手段を結ぶ直線、前記左側弾性スペーサ手段及び前記前側弾性スペーサ手段を結ぶ線、並びに前記右側弾性スペーサ手段及び前記前側弾性スペーサ手段を結ぶ線は、三角形領域を形成してなり、

前記振動発生手段は、モータ本体及び当該モータ本体から延出する出力軸を有するモータと、当該モータの前記出力軸に支持される偏心体とを備えており、

前記モータの前記モータ本体は、前記三角形領域からその後側へ外れて位置するように、前記可振板に支持されており、

前記回転手段において、

前記回転体は、その演出態様がノルマルリーチにあるときには低い回転速度にて回転し、また、前記演出態様がスペシャルリーチにあるときには前記低い回転速度よりも高い回転速度にて回転するようになっていることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

演出操作装置及び回転手段を備える遊技機において、

前記回転手段は、回転軸と、当該回転軸により支持される回転体と、当該回転体を回転可能に支持するように設けられる支持部材とを有して、期待度の高い演出態様或いは期待度の低い演出態様を前記回転体の表面の絵柄にて報知するようになっており、

前記演出操作装置は、

ベースと、

当該ベースに押動可能に支持してなる操作ボタンと、

当該操作ボタンに対し振動を伝達可能に前記ベースに支持してなる可振板と、

当該可振板の面に沿う前後方向中心線上に前記可振板及び前記ベースに接触可能に設けてなる前側弾性スペーサ手段と、

前記前後方向中心線に対する法線上にて前記前後方向中心線の左右対称な位置に位置するように前記可振板及び前記ベースに接触可能に設けられる左右両側弾性スペーサ手段と、

振動発生手段とを備えており、

前記左右両側弾性スペーサ手段を結ぶ直線、前記左側弾性スペーサ手段及び前記前側弾性スペーサ手段を結ぶ線、並びに前記右側弾性スペーサ手段及び前記前側弾性スペーサ手段を結ぶ線は、三角形領域を形成してなり、

前記振動発生手段は、モータ本体及び当該モータ本体から延出する出力軸を有するモータと、当該モータの前記出力軸に支持される偏心体とを備えており、

前記モータの前記モータ本体は、前記偏心体を前記三角形領域から後側へ外れて位置させるように、前記可振板に支持されており、

前記回転手段において、

前記回転体は、その演出態様がノルマルリーチにあるときには低い回転速度にて回転し、また、前記演出態様がスペシャルリーチにあるときには前記低い回転速度よりも高い回転速度にて回転するようになっていることを特徴とする遊技機。

【**手続補正２**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】０００８

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【**０００８**】

当該遊技機において、

回転手段は、回転軸（１６１）と、当該回転軸により支持される回転体（ＲＤ）と、当該回転体を回転可能に支持するように設けられる支持部材（１５０ｂ）とを有して、期待度の高い演出態様或いは期待度の低い演出態様を前記回転体の表面の絵柄にて報知するようになっており、

演出操作装置は、

ベース（１４０ａ）と、

当該ベースに押動可能に支持してなる操作ボタン（１４０ｃ）と、

当該操作ボタンに対し振動を伝達可能にベースに支持してなる可振板（２００ｄ）と、

当該可振板の面に沿う前後方向中心線（Ｑ）上に可振板及びベースに接触可能に設けてなる前側弾性スペーサ手段（２２０ｆ）と、

上記前後方向中心線（Ｑ）に対する法線（Ｐ）上に上記前後方向中心線（Ｑ）の左右対称な位置に位置するように可振板及びベースに接触可能に設けられる左右両側弾性スペーサ手段（２２０ｃ、２２０ｄ）と、

振動発生手段（ＶＭ）とを備えており、

左右両側弾性スペーサ手段を結ぶ直線、左側弾性スペーサ手段及び前側弾性スペーサ手段を結ぶ線、並びに右側弾性スペーサ手段及び前側弾性スペーサ手段を結ぶ線は、三角形領域を形成してなり、

振動発生手段は、モータ本体（２１４）及び当該モータ本体から延出する出力軸（２１５）を有するモータ（２００ｆ）と、当該モータの出力軸（２１５）に支持される偏心体

(2 0 0 g) とを備えており、

モータのモータ本体は、上記三角形領域からその後側へ外れて位置するように、可振板に支持されており、

回転手段において、

回転体は、その演出態様がノルマルリーチにあるときには低い回転速度にて回転し、また、上記演出態様がスペシャルリーチにあるときには上記低い回転速度よりも高い回転速度にて回転するようになっていることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

これによれば、回転手段の回転体は、その演出態様がノルマルリーチにあるときには低い回転速度にて回転し、また、演出態様がスペシャルリーチにあるときには低い回転速度よりも高い回転速度にて回転するようになっている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

このように回転体の回転速度が、回転体の演出態様がノルマルリーチにあるときには低い回転速度にて回転し、また、演出態様がスペシャルリーチにあるときには低い回転速度よりも高い回転速度にて回転するようになると、回転体の演出態様が回転体の低い回転速度に対応するノルマルリーチから高い回転速度に対応するスペシャルリーチになることで、遊技者は、例えば、大当たりを期待する等の遊技上の興趣を感受し得る。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

当該遊技機において、

回転手段は、回転軸 (1 6 1) と、当該回転軸により支持される回転体 (R D) と、当該回転体を回転可能に支持するように設けられる支持部材 (1 5 0 b) とを有して、期待度の高い演出態様或いは期待度の低い演出態様を回転体の表面の絵柄にて報知するようになつており、

演出操作装置は、

ベース (1 4 0 a) と、

当該ベースに押動可能に支持してなる操作ボタン (1 4 0 c) と、

操作ボタンに対し振動を伝達可能にベースに支持してなる可振板 (2 0 0 d) と、

当該可振板の面に沿う前後方向中心線 (Q) 上に可振板及びベースに接触可能に設けてなる前側弾性スペーサ手段 (2 2 0 f) と、

上記前後方向中心線 (Q) に対する法線 (P) 上にて上記前後方向中心線 (Q) の左右

対称な位置に位置するように可振板及びベースに接触可能に設けられる左右両側弾性スペーサ手段（２２０ｃ、２２０ｄ）と、

振動発生手段とを備えており、

当該左右両側弾性スペーサ手段を結ぶ直線、左側弾性スペーサ手段及び前側弾性スペーサ手段を結ぶ線、並びに右側弾性スペーサ手段及び前側弾性スペーサ手段を結ぶ線は、三角形領域を形成してなり、

振動発生手段は、モータ本体（２１４）及び当該モータ本体から延出する出力軸（２１５）を有するモータ（２００ｆ）と、当該モータの出力軸（２１５）に支持される偏心体（２００ｇ）とを備えており、

モータの上記モータ本体は、偏心体を上記三角形領域から後側へ外れて位置させるように、可振板に支持されており、

回転手段において、

回転体は、その演出態様がノルマルリーチにあるときには低い回転速度にて回転し、また、上記演出態様がスペシャルリーチにあるときには上記低い回転速度よりも高い回転速度にて回転するようになっていることを特徴とする。

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１９】

これによれば、回転手段の回転体は、その演出態様がノルマルリーチにあるときには低い回転速度にて回転し、また、演出態様がスペシャルリーチにあるときには低い回転速度よりも高い回転速度にて回転するようになっている。

【手続補正８】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２０】

このように回転体の回転速度が、回転体の演出態様がノルマルリーチにあるときには低い回転速度にて回転し、また、演出態様がスペシャルリーチにあるときには低い回転速度よりも高い回転速度にて回転するようになると、回転体の演出態様が回転体の低い回転速度に対応するノルマルリーチから高い回転速度に対応するスペシャルリーチになることで、遊技者は、例えば、大当たりを期待する等の遊技上の興趣を感受し得る。

【手続補正９】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２５

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正１０】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２６】

本発明によれば、回転体の演出態様が回転体の低い回転速度に対応するノルマルリーチから高い回転速度に対応するスペシャルリーチになることで、遊技者は、例えば、大当たりを期待する等の遊技上の興趣を感受し得る。また、振動発生手段が、その偏心体にて、モータの回転に伴い偏心回転することにより、出力軸、モータ本体及び左右両側弾性ス

ペーサ部材を介し、振動を操作ボタンに対し伝達可能に可振板に発生させると、当該振動が、可振板により、操作ボタンに伝達される。このように、可振板が、当該振動を操作ボタンに伝達することで、操作ボタンが振動し、遊技者は、その手により操作ボタンに触れたとき、上述のような操作ボタンの振動を感知して、リーチや大当たりを期待する等の遊技興趣を期待し得る。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 5】

普通図柄表示器 8 0 a は、複数の 7 セグメント発光ダイオードからなるもので、当該普通図柄表示器 8 0 a は、スルーゲート 5 0 を通過する遊技球に対する図柄抽選の結果に基づき、当たり図柄或いはハズレ図柄を表示する。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 7】

第 2 特別図柄表示器 8 0 c は、複数の 7 セグメント発光ダイオードからなるもので、この第 2 特別図柄表示器 8 0 c は、後述のごとく、遊技球の第 2 始動入賞口装置 4 0 の始動入賞口への入賞に対する第 2 始動入賞口センサ S 2 (図 2 0 参照) の検出出力に基づきなされる大当たり抽選に応じて、特別図柄変動を所定時間の間表示した後、当該大当たり抽選の結果に応じた特別図柄変動を停止表示する。例えば、大当たり抽選の結果が当たりであれば、第 2 特別図柄表示器 8 0 c は、当該当たりに対応した特別図柄変動を停止表示して、大入賞口装置 7 0 による大入賞口の開放の契機を提供する。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 3】

本第 1 実施形態においては、操作ハンドル 1 1 0 は、図 2 にて示すごとく、ハンドルケーシング 1 1 0 a を有しており、当該ハンドルケーシング 1 1 0 a は、図 4 にて示すごとく、筒状ケーシング本体 1 1 1 及び半球状の透光カバー 1 1 2 でもって構成されている。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 0】

ここで、当該筐体 1 3 0 は、その前側部位にて、前枠 9 0 の突出部 9 0 a の凹状切り欠き部からその前方へ突出しており、当該筐体 1 3 0 の後側部位は、球受け 皿 1 2 0 内に突出している。

【手続補正 16】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0085

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0085】

また、当該センサ本体 147 は、発光素子 147 b 及び受光素子 147 c を備えており、発光素子 140 b は、下壁 147 a の上面から遮光体 148 に向けて延出されている。受光素子 147 c は、発光素子 147 b からの光を受光するように発光素子 147 b に対向して、下壁 147 a の上面から遮光体 148 に向け延出されている。

【手続補正 17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0230

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0230】

現段階では、遊技球の第 1 或いは第 2 の始動入賞口装置 30 或いは 40 の始動入賞口への遊技球の入賞やスルーゲート 50 の遊技球の通過はないことから、上記第 1 主タイマー割り込みプログラムは、第 1 始動入賞口処理ルーチン 700、第 2 始動入賞口処理ルーチン 800、ゲート処理ルーチン 900 (図 27 及び図 32 参照) に進む。なお、この処理過程において、第 1 始動入賞口処理ルーチン 700 では、図 29 のステップ 710 にて NO と判定され、第 2 始動入賞口処理ルーチン 800 では、図 26 のステップ 810 にて NO と判定され、ゲート処理ルーチン 900 では、図 31 のステップ 910 にて NO と判定される。

【手続補正 18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0273

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0273】

ついで、ステップ 1180 における変動開始処理において、主制御装置 300 が、CPU 310 により、ステップ 1160 で選択済みの変動パターンでもって特別図柄変動を表示するように第 1 特別図柄表示器 80 b 或いは第 2 特別図柄表示器 80 c を駆動する。このため、第 1 特別図柄表示器 80 b 或いは第 2 特別図柄表示器 80 c は、当該変動パターンによる特別図柄変動の表示を行う。

【手続補正 19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0277

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0277】

このような状態において、特別図柄処理ルーチン 1100 が、その後、少なくとも一回、ステップ 1190 に進んだとき、ステップ 1180 a で変動時間計時開始された変動時間が上記所定の変動時間に達していれば、当該ステップ 1190 において、YES と判定される。すると、ステップ 1190 a における図柄変動停止コマンドセット処理において、図柄変動停止コマンドが、ステップ 1180 において開始された変動パターンの変動を停止させるようにセットされる。ついで、ステップ 1190 b における変動停止処理において、主制御装置 300 が、CPU 310 により、上述した第 1 特別図柄表示器 80 b 或いは第 2 特別図柄表示器 80 c による特別図柄変動の表示を停止させる。

【手続補正 20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0279

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0279】

一方、ステップ1220において、G1が成立すれば、YESと判定された後、ステップ1221において、次の式(6)に基づき、ゲート通過数Gが「1」だけ減算更新される。

【手続補正21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0292

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0292】

すると、ステップ1630におけるエラー判定出力処理がなされる。このエラー判定出力処理においては、ステップ1600におけるYESとの判定結果或いはステップ1610におけるYESとの判定結果に基づき、磁石使用による不正行為或いは振動発生による不正行為が、エラーとして判定される。

【手続補正22】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0304

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0304】

然る後、特別図柄変動が終了すると、ステップ2120においてYESと判定され、これに伴い、ステップ2120における装飾図柄変動終了処理において、装飾図柄変動が終了する(図41参照)。

【手続補正23】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0305

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0305】

すると、次のステップ2122において、チャンス到来による操作ボタン押動指令処理がなされる。これに伴い、操作ボタン140cの押動が否かが判定される。ここで、操作ボタン140cが押動されていなければ、ステップ2123において、NOと判定されて、ステップ2124において所定時間経過が否かが判定される。なお、当該所定時間は、遊技者による操作ボタン140cの押動に要する時間をいう。

【手続補正24】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0314

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0314】

これに伴い、可振板200dが、その厚さ方向への振動やシーソー的振動を、支持部材140bを介し操作ボタン140cに伝達する。従って、当該操作ボタン140cは、可振板220dの振動態様に応じて振動することとなる。

【手続補正25】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0332

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0332】

一方、上述のような発射センサによる検出がなくステップ2180においてNOと判定される場合には、所定の客待ち時間の経過後客待ちモード表示演出終了にもかかわらず、新たな客がなく遊技開始にならないことから、次のステップ2181において、客待ちモード光演出処理がなされる。

【手続補正26】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0333

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正27】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0368

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0368】

ついで、ステップ3210において、装飾図柄変動停止か否かが判定される。現段階において、ステップ2110（図34参照）の装飾図柄変動処理における装飾図柄変動が図41にて示すごとく終了すれば、当該ステップ3210においてYESと判定される。ここで、装飾図柄変動停止は対応の特別図柄変動停止を前提とすることから、当該特別図柄変動停止でもって、大当たり抽選の結果が明らかになる。従って、大当たりであれば、遊技者は上記予告通りであると認識する。また、外れであれば、遊技者は上記予告に反して期待を裏切られることになる。